

平成 29 年度 第 12 回武蔵野市環境市民会議 議事要録

日時 平成 29 年 7 月 27 日 (木) 18 時 30 分開会

場所 武蔵野市役所 412 会議室

出席者 委員 12 名、事務局 3 名

(委員：大江委員長、鈴木副委員長、落合委員、小玉委員、小林委員、中山委員、中野委員、白田委員、花俣委員、松岡委員、山根委員、郡委員)

内容 武蔵野市地球温暖化対策地域プランについて  
市のエネルギー施策について  
その他

武蔵野市地球温暖化対策地域プランについて

発言者	要旨
事務局	(「武蔵野市地球温暖化対策地域プラン」(以下、プランと表記)について、策定し公表されたことを説明)。
委員長	プランの温室効果ガス排出量削減目標の 26%という数値について、パブリックコメントで目標設定が低いのではないかと、という意見はあったか。
事務局	パブリックコメントでは、家庭部門・商業部門の多い武蔵野市では削減目標を 40%にすべきではないかと、との意見があった。
委員長	武蔵野市の排出量削減目標は国と同様のものである。目標設定にあたり、国と都の排出量削減目標の違いを比較検討したか。
事務局	国と都の目標では、基準年と目標年がそれぞれ異なるので、単純な比較検討は行っていない。温暖化対策地域プラン作成のガイドラインに温室効果ガス排出量削減目標の設定方法について記載があり、それに基づき象徴的な数字である 26%という値に設定した。
委員長	パブリックコメントで目標値が低いのではないかと、との意見もあったので、基準の設定理由をはっきり説明できたら、より良いと考える。プランについて委員から意見はあるか。
事務局	目標の見直しについては、プランに記載されているように環境基本計画の改定や社会動向等を踏まえ、実施することを考えている。
委員	様々な目標設定の方法があると思う。武蔵野市は住宅が多いので、温室効果ガス排出量削減目標値も高くなるのではないかと、との意見があった。ただ、武蔵野市単独で、温室効果ガス排出量削減目標について、数年おきに分析・見直しをすることは難しい。それよりも、市全体を牽引するために、世界や日本の動向を見ながら、象徴的な数字を掲げていくことが必要ではないかと考えている。
委員	市民感覚としては、二酸化炭素排出係数よりも、自分の生活や事業活動

	がどれくらい環境に貢献しているのかを感覚的に分かることが大事だと考えている。
--	--

市のエネルギー施策について

発言者	要旨
事務局	(「武蔵野市エネルギー施策の視点について」説明。)
委員長	武蔵野市では、創エネや省エネなど、多様な施策を実施している。今後の施策に活かすため、委員の意見をもらいたい。
委員	市の施策説明の中にあつた BDF (バイオディーゼルフュエル) について、回収・生産する側のことを考えた。BDF に精製する前の、使用済油の品質に差があるため回収が難しく、それに伴い、BDF の品質の差も出てくる現状がある。その結果、BDF を安定的にエネルギーとして使用することは難しいのではないかと考えている。 杉並区では、小学校の学校給食から出る油を集めている。給食で使われているため、品質が良く、精製効率が良い。ただ、消防法で規制がかかり大きく事業展開することが難しくなっている、とのことである。また、エネルギーとして使用していくことを考えると、BDF を燃料として使用する機器の維持・管理の負担が大きい、という視点も大事であると考えている。 現在のディーゼル車は精密な設計となっているため、燃料の BDF の含有率が少なくなければならない。本質的にエコと呼べるのか疑問が残る。武蔵野市の施策には、期待している。
委員	油の品質の基準はあるか。
委員	良い品質としては、天ぷらカスなどを濾すことや動物性ではなく植物性油であることが挙げられる。不純物として様々なものが入っていると、燃料として使用したとき、機器に負荷がかかる。どのような油でもエネルギーになるわけではない、ということ。なお、油の再利用については、先進的な京都市などの知見が多くある。
委員長	市のムーバスの燃料に BDF は使われているのか。
事務局	使われていない。
委員	武蔵野市は BDF を精製するプラントはあるのか。
委員	使用済油の状態によって、BDF の品質が異なってくる現状があり、この点を踏まえると武蔵野市でプラントを持ち、BDF 精製を行っていくことは難しい。そのため、市では業者に委託し事業実施している。市のムーバスを活用することは、使用済油の再利用事業を象徴的に示す意味合いもある。ムーバスの所管課は、BDF が燃料として不安定という理由で、ムーバ

	スでの使用に難色を示している。
委員長	廃油回収業者について教えてほしい。
事務局	都心近郊で、廃油の回収とエネルギーとしての再利用を推進している業者である。
委員長	その業者が持つ、精製プラントはどのくらいの大きさか。
委員	環境展へのブース出展など様々な事業を行っているが、精製プラントの大きさは分からない。
委員	大きさは二槽式洗濯機を少し大きくした程度であると思う。ムーバスに関しては市の方針は適切であると思う。客を乗せるものであるので、BDFを燃料として使用することに慎重になるべきである。ちなみに建築関係のディーゼル機械は、BDFを20%ほど使用できるそうである。
委員長	BDFを発電に使用できるのか。
委員	バイオディーゼルコージェネレーションシステム、というものはある。ただ、都の排出ガス規制が厳しいため、埼玉県や茨城県内等で運用されている現状である。 また、環境に対応できるバイオディーゼルを開発している企業もあるが、高価であるため現状ではあまり使用されていない。
委員	風力発電はどうか。以前、筑波市では小型の風力発電設備を導入したことがあるようだが、武蔵野市では風力利用についてどのような現状か。
委員長	都内の高校で実施したことがあるようである。ただ、周辺から騒音や光の反射などの苦情があったと聞く。
委員	小型の家庭用の風力発電設備は、常に吹く風がないため発電量と設置コストのバランスが悪い。風力発電で環境に配慮していることのPRにはなるが、発電施設としての利点は少ない。
委員	都心部で大型の風力発電設備は無理だと思うが、小型のものであれば検討できるのではないか。
委員	以前、吉祥寺のビル風を利用して、風力発電4機ほどを試験運転したことがある。実際は、1機しか動かなかった。最低でも秒速5メートルくらいの風が常時吹いていないと電力供給できるほどの動力にはならない。そのため、都心部では実用が難しい現状がある。
委員	大型の風力発電設備は低周波振動があり、都心部での使用は難しいと考えている。
副委員長	事務局が説明した市の施策11項目それぞれ、優先度が異なってくると考える。環境への寄与率が高いものを選び実施することは施策として効率が良いが、今後の事業としての伸びを考えると、寄与率が低いものを切り捨てず、多くの施策を準備することが大切である。個人的には、新し

	<p>くできた武蔵野クリーンセンターの環境への寄与率や潜在的な能力について興味がある。ごみを燃やすだけではなくて、発電も行うため、どの程度の寄与率があるのか興味がある。</p> <p>参考として、茨城県水戸市では清掃工場の建て替えに伴い、今まで清掃工場から農業用ビニールハウスに供給していた熱源がなくなることで、代替エネルギー確保の対策に追われているようである。</p> <p>また、数字の見える化について、例えば、1キロワットがどの程度なのか、電球何個分などと、現状例示が多すぎてよくわからない。同じ単位にするなど、なるべくわかりやすいようにすることも大切だろう。</p> <p>武蔵野市においても、様々な事業を実施されているが、他者の活動を阻害しないような施策を展開して欲しい。</p>
委員長	事務局で期待している施策はあるか。
事務局	クリーンセンターについては4月から稼働したばかりであるので、今後注目して欲しい。また、武蔵野市では剪定した枝を市外へ運び処理している。再利用と輸送にかかるコストや排気などを勘案すると、環境にとって本質的には何が良いのか庁内で考えている。そのような施策の本質的な部分について、意見も踏まえて検討していきたいと考えている。
委員	森のこと、木のことは大切であると考えている。木材を使う側において省エネを推進する方向性も考えられる。例えば、リフォームするとき地元や出身地の木材を使うなどの方法がある。生産する側も、使う側も利点がある関係である。また、個人的には武蔵野市で展開している施策を再整理し実施することに期待をしている。
委員	市では多摩の木材を使用している。庁舎とクリーンセンター間の歩道接道部には、木材を使用したガードレールがある。ここに多摩の木材が使用されている。多摩の森を守るために、消費地についても考える必要があるだろう。
委員長	他に何かあるか。
委員	私の所属する事務所では市の委託を受けて、家庭ごみの収集を実施しており、燃費の効率化について努力している。
委員	武蔵野市全体でどれくらいLEDを使用しているか分かるか。
委員	分からない。市内公共施設でどれくらい使用しているかなら分かる。
委員	私の所属している大学も、ようやく照明にLEDを導入したところである。省エネについて、関心がないのが現状で、反省しなければならないと思っている。一方、省エネなどの啓発活動も必要だと感じている。
委員	家庭での省エネについて考えている。自宅に省エネに関する機器は十分設置し取組みも行っている。現状より多くの対策は難しいと感じており、

	新しい省エネ機器などが導入されることを期待している。
委員	一般家庭の電気使用量について、東日本大震災前は月あたり約 300 キロワットほどであったが、最近では約 271 キロワット程度であり、全体的に徐々に電気の使用量が減少していることを示すデータもある。このことから、日本の動向が省エネに向かっているとと言えるのではないか。
委員	水素活用について、横浜などでは様々な実験を行っている。社内で武蔵野市において何ができるか、話題にはしている。例えば境浄水場に太陽光発電設備を設置し、CO2 フリーの水素を作る水素ステーションを設置したらどうか、などの話題が出ていた。
委員長	エネルギーを地産するとすると、難しい。
委員	街中では、商店の照明を LED 化している。その過程において、蛍光灯の LED 化が難しく、あまり普及していないのが現状である。また、電球についても、家庭で使用されている白熱電球の種類の多さに、販売されている LED 電球の種類が追いついてない状況である。先日、自宅照明の LED 化を行ったが、特殊な電球を使用しているため、LED 化できない部分があった。まだまだ普及はこれからで、今後家庭の照明の LED 化もより一層進むだろう。
副委員長	家庭での省エネについてネガティブに考える必要はないと思う。生活を切り捨ててまで省エネに取り組む必要はない。広域的な視点から見ると、武蔵野市は家庭が多いので、全体的なエネルギー消費量は少ない。その意味では省エネを突き詰めて深刻に考える必要はなく、スマートなエネルギーの使い方を考えたり、生活の中で新しい製品・技術を活用したりすればよいと考えている。
委員長	肩肘張らずに取り組めばよい、ということ。 そろそろ時間になるが、事務局から他にあるか。

その他

発言者	要旨
事務局	(資料をもとに、都の LED 交換事業及び環境市民会議のあり方に関するアンケートについて説明。また、次回会議日程について説明。)